



古澤 博之議員

南阿蘇村の学童保育の環境整備について

学童保育の現状と課題

古澤議員

南阿蘇村には3つの小学校にそれぞれ学童保育(子供の居場所を作る事が主)が設置されており、共働き世帯の増加に伴い利用ニーズが高まっている。

令和7年4月1日現在、白水小学童(45名)は旧校舎、南阿蘇西小学童(43名)は旧保育園舎を活用しており、広さに余裕があり人数制限はない。しかし、久木野小学童(65名)は復興住宅を再利用した住宅タイプの建物(4年前に移転)で、定員超過の状態。その結果、高学年児童(4年生から6年生)が自宅待機を強いられている現状がある。保護者の就労への影響や児童の安全確保への懸念を表明し、早急な対策と将来的な施設拡充計画を求める。

国が定める学童保育の基準と、それに基づいた村独自の学童保育の入所方針や考え方についてお聞きしたい。

村 長

国の基準：児童1人につきおおむね1.65㎡以上、1単位あたり児童数おおむね40人以下、支援員は1単位あたり2名以上と規定されている。

村の方針：「放課後児童クラブ入所判定基準」に基づき、優先順位をつけて入所判定を行っている。希望する全ての児童を受け入れたい考えはあるが、定員超過の場合は、家庭の災害の有無、低学年、ひとり親などの項目を点数化し、合計点数の高い方から優先して承認している。

古澤議員

久木野小学童の定員超過による自宅待機児童の問題に対し、村としてどの程度の緊急性を持って捉えているかお聞かせ願いたい。

村 長

今年度当初、久木野児童クラブは定員50名に対し74名の利用申し込みがあり、通常利用の6年生4名と長期利用(夏休みなど)の4年生以上6名を断っている状況。村の規定では定員の1割強の範囲で入所を認めているが、学童指導員不足や年度途中の低学年新規受け入れのため、やむを得ず約65名で運用している。

自宅待機児童が生じている現状は、村長自身も古澤議員と同様の問題意識を持っており、この3年間生じてきている事実を重く受け止めている。待機児童をそのままにしておくことは「行政としてももう限界に来ている」と判断している。

古澤議員

久木野小学童の定員超過問題を恒久的に解決するための施設拡充計画はあるのか。ある場合、具体的な計画内容(増築、新築、プレハブなど)、設置場所、完成までのスケジュールについてお聞きしたい。

令和8年4月からの運用開始を目指す

村 長

既存施設に隣接する南側に、リース契約による「ユニットハウス構造の施設」整備の検討を指示した。予定スケジュール：小学校との設置場所協議や建物の規模、学童指導員の採用に時間を要する。今年12月の議会で、補正予算として必要経費を計上したい。議会の承認が得られれば、来年(令和8年)1月から建設工事に着工。令和8年度新年度の4月から運用開始を目指している。

この計画により、古澤議員の提案を前向きに実現していき、議会にも引き続き理解と協力を求めたい。

古澤議員

村長からの丁寧な答弁に感謝し、村長が示した「プレハブ型の建物を来年1月から計画し、4月から入所できる」というスケジュールについて、念のため再確認。

国からの補助金(運営費や施設整備費に対する補助)を最大限に活用し、村の財政負担を少なくしながら、安心して預け入れのできる施設の拡充を要望する。

村 長

財源への配慮に感謝する。

関係担当課と協議し、国などの補助事業をしっかりと活用しながら、子どもたちが安心して遊び遊べる環境づくりに取り組んでいく。

今回の一般質問で可能な限り具体的に、そして期限を決めて今後も誠心誠意対応していくので、引き続きの協力を求めたい。